

EUROPEAN PATENT OFFICE

Patent Abstracts of Japan

PUBLICATION NUMBER : 07145035
PUBLICATION DATE : 06-06-95

APPLICATION DATE : 24-11-93
APPLICATION NUMBER : 05339123

APPLICANT : KUGA MASAOKI;

INVENTOR : KUGA MASAOKI;

INT.CL. : A61K 7/48 A61K 7/00 A61K 35/12 A61K 35/78

TITLE : COSMETIC

ABSTRACT : PURPOSE: To prepare a cosmetic having a normalizing effect on the skin.

CONSTITUTION: This cosmetic is prepared by suitably blending herb drugs such as *Houttuynia cordata* Thunb., Moutan Cortex, *Scutellaria baicalensis* Georg., *Nepeta japonica* Maxim, peony, *Rehmannia glutinosa* Libos. var. *purpurea* Makino, *Coptis japonica* Makino, Cork tree bark, *Gardenia*, *Rheum* spp., *Seseli libanotis* Koch var. *daucifolia* DC. and *Atractylodes*, boiling these crude drugs in a vegetable oil such as olive oil, removing solid matters from the resultant extract solution by filtration, etc., to obtain an extract, adding and dissolving equine oil and beeswax therein, cooling it under stirring to prepare an ointment- state material and using the resultant ointment-state material as the main component.

COPYRIGHT: (C)1995,JPO

(C) WPI / DERWENT

AN - 2000-217932 [19]

AP - JP19980230069 19980730

CPY - SUNZ

DC - B04 D21

FS - CPI

IC - A61K7/00 ; A61K7/48 ; A61K9/06 ; A61K35/78 ; A61K35/80

MC - B04-A08C2 B04-A10 B12-M05 B14-C03 B14-N17C D08-B09

M1 - [01] M423 M431 M782 M903 P420 P943 Q262 V400 V406

M6 - [02] M903 P420 P943 Q262 R210

PA - (SUNZ) SUNSTAR CHEM IND CO LTD

PN - JP2000044481 A 20000215 DW200019 A61K35/78 008pp

PR - JP19980230069 19980730

XA - C2000-066614

XIC - A61K-007/00 ; A61K-007/48 ; A61K-009/06 ; A61K-035/78 ; A61K-035/80

AB - JP2000044481 NOVELTY - A topical preparation comprising a blend of extract(s) plants such as, *Sophora flavescens*, balsam, mint, Japanese angelica root, *Sanguisorba officinalis*, liquorice, aloe, loofah, scutellaria root, sea weeds, chamomile, gardenia, Kumazasa, mulberry, perilla, etc., is new. DETAILED DESCRIPTION - The topical preparation is a blend of extract(s) of the following: *Sophora flavescens*, balsam, mint, Japanese angelica root, *Sanguisorba officinalis*, liquorice, aloe, loofah, scutellaria root, sea weeds, chamomile, gardenia, Kumazasa (*Sasa veitchii*), mulberry, perilla, *Equisetum arvense*, *Achillea millefolium*, carrot, hamamelis, rose, horse chestnut, *Ganoderma lucidum*, *Angelica radix*, rosemary, apple, peach, apricot, peony, ginger, moutan bark.

- ACTIVITY - Anti inflammatory. The anti inflammatory activity of the extract (consisting of 25 weight pts. of mint and 25 wt.pts of *Sanguisorba officinalis*) was assessed in vivo using male Wister rats which were induced with oedema in the rear leg. The rate of suppression of the oedema was found to be 76.8% when compared with control sample. MECHANISM OF ACTION - None given. USE - The preparation is useful for suppressing etching and inflammation in dermatological disorders such as atopic dermatitis and senile pruritus

- (Dwg.0/0)

IW - TOPICAL PREPARATION SUPPRESS INFLAMMATION ETCH ATOPIC DERMATITIS PRURITIC CONTAIN BLEND SPECIFIC PLANT EXTRACT

IKW - TOPICAL PREPARATION SUPPRESS INFLAMMATION ETCH ATOPIC DERMATITIS PRURITIC CONTAIN BLEND SPECIFIC PLANT EXTRACT

NC - 001

OPD - 1998-07-30

ORD - 2000-02-15

PAW - (SUNZ) SUNSTAR CHEM IND CO LTD

TI - Topical preparation for suppressing inflammation and etching due to atopic dermatitis and pruritus - contains blend of specific plant extracts

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平7-145035

(43)公開日 平成7年(1995)6月6日

(51)Int.Cl. ⁸	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 K 7/48				
7/00	K			
	Y			
	W			
35/12		7431-4C		

審査請求 未請求 請求項の数31 書面 (全 14 頁) 最終頁に続く

(21)出願番号 特願平5-339123

(22)出願日 平成5年(1993)11月24日

(71)出願人 592151890

久我 高昭

愛媛県新居浜市坂井町3丁目14番52号

(71)出願人 593077490

久我 正明

愛媛県北条市辻826番地5号

(72)発明者 久我 正明

愛媛県北条市辻826番地5号

(54)【発明の名称】 化粧品

(57)【要約】

【目的】皮膚を正常化する作用をもつ、化粧料を得ることである。

【構成】ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、ケイガイ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウバク、サンシシ、ダイオウ、ボウフウ、ソウジュツ等の生薬を適宜組合せて、これらをオリーブ油等の植物油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他により固形物を除去してエキスを得る、これに馬の油と蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする化粧料。

【請求項 22】 ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、サイコ、ケイガイ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウバク、サンシシ、ダイオウ、ボウフウ、ソウジュツの生薬

を組合わせて、これらを馬の油で煮出して得たエキスを有効主成分とすることを特徴とする化粧料。

【請求項 23】 ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、サイコ、ケイガイ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウバク、サンシシ、ダイオウ、オウヒ、ソウジュツ、サンショウの生薬を組合わせて、これらを馬の油で煮出して得たエキスを有効主成分とすることを特徴とする化粧料。

【請求項 24】 ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、サイコ、ケイガイ、カンゾウ、シャクヤク、ジオウ、ダイオウ、ゲンジン、ビャクシの生薬を組合わせて、これらを馬の油で煮出して得たエキスを有効主成分とすることを特徴とする化粧料。

【請求項 25】 ジュウヤク、ボタンピ、オウゴンの生薬を組合わせて、これらを馬の油で煮出して得たエキスを有効主成分とすることを特徴とする化粧料。

【請求項 26】 ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、ケイガイ、カンゾウの生薬を組合わせて、これらを馬の油で煮出して得たエキスを有効主成分とすることを特徴とする化粧料。

【請求項 27】 ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、サイコ、ケイガイの生薬を組合わせて、これらを馬の油で煮出して得たエキスを有効主成分とすることを特徴とする化粧料。

【請求項 28】 ジュウヤク、ボタンピ、サイコ、ケイガイ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウバク、サンシシ、ダイオウ、オウヒ、ソウジュツ、サンショウの生薬を組合わせて、これらを馬の油で煮出して得たエキスを有効主成分とすることを特徴とする化粧料。

【請求項 29】 ジュウヤク、ボタンピ、サイコの生薬を組合わせて、これらを馬の油で煮出して得たエキスを有効主成分とすることを特徴とする化粧料。

【請求項 30】 ジュウヤク、ボタンピ、サイコ、ケイガイの生薬を組合わせて、これらを馬の油で煮出して得たエキスを有効主成分とすることを特徴とする化粧料。

【請求項 31】 特許請求の範囲の第 1 項、第 2 項、第 3 項、第 4 項、第 5 項、第 6 項、第 7 項、第 8 項、第 9 項、第 10 項、第 11 項、第 12 項、第 13 項、第 14 項、第 15 項、第 16 項、第 17 項、第 18 項、第 19 項、第 20 項、第 21 項、第 22 項、第 23 項、第 24 項、第 25 項、第 26 項、第 27 項、第 28 項、第 29 項または第 30 項記載の化粧料において、前記の煮出して得たエキスをヒノキチオールを組み合わせたことを特徴とする化粧料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 この発明は化粧料として利用される。

【0002】

【従来の技術】 従来は、にきび、主婦湿疹、かゆみ等の皮膚に対して副作用がなく、かつ皮膚を正常化させる化

粧料はない。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 にきび、主婦湿疹、かゆみ等の皮膚に対して副作用がなく、かつ皮膚を正常化させる化粧料を得ることである。

【0004】

【課題を解決するための手段】 第 1 の手段として、ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、ケイガイ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウバク、サンシシ、ダイオウ、ボウフウ、ソウジュツ等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油等の植物油で煮出して得たエキスと馬の油を組み合わせたものを有効主成分とする化粧料。第 2 の手段として、ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、サイコ、ケイガイ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウバク、サンシシ、ダイオウ、ボウフウ、ソウジュツ等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油等の植物油で煮出して得たエキスと馬の油を組み合わせたものを有効主成分とする化粧料。第 3 の手段としてジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、サイコ、ケイガイ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウバク、サンシシ、ダイオウ、オウヒ、ソウジュツ、サンショウ等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油等の植物油で煮出して得たエキスと馬の油を組み合わせたものを有効主成分とする化粧料。第 4 の手段としてジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、サイコ、ケイガイ、カンゾウ、シャクヤク、ジオウ、ダイオウ、ゲンジン、ビャクシ等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油等の植物油で煮出して得たエキスと馬の油を組み合わせたものを有効主成分とする化粧料。第 5 の手段として、ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油等の植物油で煮出して得たエキスと馬の油を組み合わせたものを有効主成分とする化粧料。第 6 の手段として、ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、ケイガイ、カンゾウ等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油等の植物油で煮出して得たエキスと馬の油を組み合わせたものを有効主成分とする化粧料。第 7 の手段として、ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、サイコ、ケイガイ等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油等の植物油で煮出して得たエキスと馬の油を組み合わせたものを有効主成分とする化粧料。第 8 の手段としてジュウヤク、ボタンピ、サイコ、ケイガイ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウバク、サンシシ、ダイオウ、オウヒ、ソウジュツ、サンショウ等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油等の植物油で煮出して得たエキスと馬の油を組み合わせたものを有効主成分とする化粧料。第 9 の手段として、ジュウヤク、ボタンピ、サイコ等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油等の植物油で煮出して得たエキスと馬の油を組み合わせたものを有効主成分とする化粧料。第 10 の手段として、ジュウヤク、ボタンピ、サイコ、ケイガイ等の生薬を適宜組合わせて、これ

らをオリーブ油等の植物油で煮出して得たエキスと馬の油を組み合わせたものを有効主成分とする化粧料。第 11 の手段として、第 1 の手段、第 2 の手段、第 3 の手段、第 4 の手段、第 5 の手段、第 6 の手段、第 7 の手段、第 8 の手段、第 9 の手段、または第 10 の手段の生薬をそれぞれにおいて適宜組合わせて、オリーブ油等の植物油で煮出して得たエキスを有効主成分とする化粧料。第 12 の手段として、第 1 の手段、第 2 の手段、第 3 の手段、第 4 の手段、第 5 の手段、第 6 の手段、第 7 の手段、第 8 の手段、第 9 の手段、または第 10 の手段の生薬をそれぞれにおいて適宜組合わせて、馬の油で煮出して得たエキスを有効主成分とする化粧料。第 13 の手段として、第 1 の手段、第 2 の手段、第 3 の手段、第 4 の手段、第 5 の手段、第 6 の手段、第 7 の手段、第 8 の手段、第 9 の手段、第 10 の手段、第 11 の手段および第 12 の手段の煮出して得たエキスにヒノキチオールを組み合わせたものを有効主成分とする化粧料。皮膚をより正常に改善するために、漢方生薬のもつ有効な薬理作用を組合せた化粧料を發明した。上記の生薬は下記のものに基づいて組み立てられている。

1. 消炎、抗菌等の薬理作用をもつ : ジュウヤク
2. 血管透過性亢進を抑制等の薬理作用をもつ : ボタンピ
3. 解毒等の薬理作用をもつ : オウゴン
4. かゆみ止め等の薬理作用をもつ : ケイガイ
5. 抗アレルギー等の薬理作用をもつ : サイコ

これらをベースとして下記の生薬を適宜組合わせる。

1. 消炎、解毒等の薬理作用をもつ : ダイオウ、オウレン、オウバク、ゲンジン、サンシシ、オウヒ
2. かゆみ止め等の薬理作用をもつ : ポウフウ、ソウジュツ、サンショウ、ビャクシ
3. 皮膚の滋潤等の薬理作用をもつ : シャクヤク、ジオウ
4. 抗アレルギー、抗炎症作用等の薬理作用をもつ : カンソウ

また上記と同様の薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜組合わせることもできる。そして更に皮膚の湿潤化、皮膚組織への強力な浸透力等、その他の効果をもつ馬油と、そして植物油を組み合わせることで、より皮膚の正常化を高める。

【0005】

【作用】本発明の化粧料を軽く塗布することにより副作用がほとんどなく、皮膚を正常化していく。また、にきび、主婦湿疹、かゆみ等を伴う皮膚に対しても、それを改善して皮膚を正常化していく。そして皮膚を正常に

回復させることはもちろん、副腎皮質ステロイドホルモン剤の使用により変色した皮膚の色を正常に戻すこともできる。

【0006】

【実施例 1】ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、ケイガイ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウバク、サンシシ、ダイオウ、ポウフウ、ソウジュツ等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに馬の油と蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やしたものを主成分とする化粧料。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク 20g、ボタンピ 10g、オウゴン 10g、ケイガイ 5g、シャクヤク 10g、ジオウ 10g、オウレン 5g、オウバク 3g、サンシシ 5g、ダイオウ 10g、ポウフウ 10g、ソウジュツ 10g の割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同様の薬理作用をもつその他の生薬を適宜用いてもよい。次に本発明の化粧料の製造の 1 例を示す。ジュウヤク 20g、ボタンピ 10g、オウゴン 10g、ケイガイ 5g、シャクヤク 10g、ジオウ 10g、オウレン 5g、オウバク 3g、サンシシ 5g、ダイオウ 10g、ポウフウ 10g、ソウジュツ 10g の生薬を約 140℃のオリーブ油 500cc で約 5 分間煮出して得た抽出液を濾過してエキスを得る。そしてエキスの温度が約 80~100℃の時、蜜蝋 100g と馬の油 400g を加えて溶解、攪拌しながら冷やしてつくった化粧料。蜜蝋、馬の油等のほかにその他の基剤を加えても良い。

【0007】

【実施例 2】実施例 1 におけるオリーブ油を胡麻油、サフラワー油、ナタネ油、月見草油、ヒマワリ油、コーン油等その他の植物油としたもの。

【0008】

【実施例 3】実施例 1 におけるオリーブ油を α リノレン酸系のシソ油、エゴマ油等その他の植物油としたもの。

【0009】

【実施例 4】実施例 1、実施例 2、実施例 3 における、煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去して得たエキスを、それぞれヒノキチオール（植物油の成分）を組み合わせたもの。

【0010】

【実施例 5】実施例 1、実施例 2、実施例 3、実施例 4 における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

【0011】

【実施例 6】ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、サイコ、ケイガイ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウバク、サンシシ、ダイオウ、ポウフウ、ソウジュツ等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに馬の油と蜜蝋を入れて溶解、

攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする化粧料。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク20g、ボタンピ10g、オウゴン10g、サイコ10g、ケイガイ5g、シャクヤク10g、ジオウ10g、オウレン5g、オウバク3g、サンシシ5g、ダイオウ10g、ポウフウ10g、ソウジュツ10gの割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同様の薬理作用をもつその他の生薬を適宜用いてもよい。次に本発明の化粧料の製造の1例を示す。ジュウヤク20g、ボタンピ10g、オウゴン10g、サイコ10g、ケイガイ5g、シャクヤク10g、ジオウ10g、オウレン5g、オウバク3g、サンシシ5g、ダイオウ10g、ポウフウ10g、ソウジュツ10gの生薬を約140℃のオリーブ油500ccで約5分間煮出して得た抽出液を濾過してエキスを得る。そしてエキスの温度が約80～100℃の時、蜜蝋100gと馬の油400gを加えて溶解、攪拌しながら冷やしてつくった化粧料。蜜蝋、馬の油等のほかにその他の基剤を加えても良い。

【0012】

【実施例7】実施例6におけるオリーブ油を胡麻油、サフラワー油、ナタネ油、月見草油、ヒマワリ油、コーン油等その他の植物油としたもの。

【0013】

【実施例8】実施例6におけるオリーブ油を α リノレン酸系のシソ油、エゴマ油等その他の植物油としたもの。

【0014】

【実施例9】実施例6、実施例7、実施例8における、煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去して得たエキスを、それぞれヒノキチオール（植物油の成分）を組み合わせたもの。

【0015】

【実施例10】実施例6、実施例7、実施例8、実施例9における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

【0016】

【実施例11】ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、サイコ、ケイガイ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウバク、サンシシ、ダイオウ、オウヒ、ソウジュツ、サンショウ等の生薬を適宜組合せて、これらをオリーブ油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに馬の油と蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やしたものを主成分とする化粧料。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク20g、ボタンピ10g、オウゴン10g、サイコ10g、ケイガイ5g、シャクヤク10g、ジオウ10g、オウレン5g、オウバク3g、サンシシ5g、ダイオウ10g、オウヒ3g、ソウジュツ10g、サンショウ3gの割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同様の薬理作用をもつその他の生薬を適宜用いてもよい。次に本発明の化粧料の製造の1例を示す。ジュウヤク20g、ボタンピ10g、オウゴン10g、サイコ10g、ケイガイ5g、シャクヤク10g、ジオウ10g、オウレン5g、オウバク3g、サンシシ5g、ダイオウ10g、オウヒ3g、ソウジュツ10g、サンショウ3gの生薬を約140℃のオリーブ油500ccで約5分間煮出して得た抽出液を濾過してエキスを得る。そしてエキスの温度が約80～100℃の時、蜜蝋100gと馬の油400gを加えて溶解、攪拌しながら冷やしてつくった化粧料。蜜蝋、馬の油等のほかにその他の基剤を

ウヤク20g、ボタンピ10g、オウゴン10g、サイコ10g、ケイガイ5g、シャクヤク10g、ジオウ10g、オウレン5g、オウバク3g、サンシシ5g、ダイオウ10g、オウヒ3g、ソウジュツ10g、サンショウ3gの生薬を約140℃のオリーブ油500ccで約5分間煮出して得た抽出液を濾過してエキスを得る。そしてエキスの温度が約80～100℃の時、蜜蝋100gと馬の油400gを加えて溶解、攪拌しながら冷やしてつくった化粧料。蜜蝋、馬の油等のほかにその他の基剤を加えても良い。

【0017】

【実施例12】実施例11におけるオリーブ油を胡麻油、サフラワー油、ナタネ油、月見草油、ヒマワリ油、コーン油等その他の植物油としたもの。

【0018】

【実施例13】実施例11におけるオリーブ油を α リノレン酸系のシソ油、エゴマ油等その他の植物油としたもの。

【0019】

【実施例14】実施例11、実施例12、実施例13における、煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去して得たエキスを、それぞれヒノキチオール（植物油の成分）を組み合わせたもの。

【0020】

【実施例15】実施例11、実施例12、実施例13、実施例14における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

【0021】

【実施例16】ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、サイコ、ケイガイ、カンゾウ、シャクヤク、ジオウ、ダイオウ、ゲンジン、ビャクシ等の生薬を適宜組合せて、これらをオリーブ油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに馬の油と蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする化粧料。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク20g、ボタンピ10g、オウゴン10g、サイコ10g、ケイガイ5g、カンゾウ5g、シャクヤク10g、ジオウ10g、ダイオウ10g、ゲンジン10g、ビャクシ10gの割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同様の薬理作用をもつその他の生薬を適宜用いてもよい。次に本発明の化粧料の製造の1例を示す。ジュウヤク20g、ボタンピ10g、オウゴン10g、サイコ10g、ケイガイ5g、カンゾウ5g、シャクヤク10g、ジオウ10g、ダイオウ10g、ゲンジン10g、ビャクシ10gの生薬を約140℃のオリーブ油500ccで約5分間煮出して得た抽出液を濾過してエキスを得る。そしてエキスの温度が約80～100℃の時、蜜蝋100gと馬の油400gを加えて溶解、攪拌しながら冷やしてつくった化粧料。蜜蝋、馬の油等のほかにその他の基剤を

加えても良い。

【0022】

【実施例 17】実施例 16 におけるオリーブ油を胡麻油、サフラワー油、ナタネ油、月見草油、ヒマワリ油、コーン油等その他の植物油としたもの。

【0023】

【実施例 18】実施例 16 におけるオリーブ油を α リノレン酸系のシソ油、エゴマ油等その他の植物油としたもの。

【0024】

【実施例 19】実施例 16、実施例 17、実施例 18 における植物油にヒノキチオール（植物油の成分）を添加したもの。

【0025】

【実施例 20】実施例 16、実施例 17、実施例 18、実施例 19 における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

【0026】

【実施例 21】ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに馬の油と蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする化粧料。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク 20 g、ボタンピ 10 g、オウゴン 10 g の割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同じ薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。次に本発明の化粧料の製造の 1 例を示す。ジュウヤク 20 g、ボタンピ 10 g、オウゴン 10 g の生薬を約 140℃ のオリーブ油 500 cc で約 5 分間煮出して得た抽出液を濾過してエキスを得る。そしてエキスの温度が約 80～100℃ の時、蜜蝋 100 g と馬の油 400 g を加えて溶解、攪拌しながら冷やしてつくった化粧料。蜜蝋、馬の油等のほかにその他の基剤を加えても良い。

【0027】

【実施例 22】実施例 21 におけるオリーブ油を胡麻油、サフラワー油、ナタネ油、月見草油、ヒマワリ油、コーン油等その他の植物油としたもの。

【0028】

【実施例 23】実施例 21 におけるオリーブ油を α リノレン酸系のシソ油、エゴマ油等その他の植物油としたもの。

【0029】

【実施例 24】実施例 21、実施例 22、実施例 23 における植物油にヒノキチオール（植物油の成分）を添加したもの。

【0030】

【実施例 25】実施例 21、実施例 22、実施例 23、実施例 24 における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

【0031】

【実施例 26】ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、ケイガイ、カンゾウ等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに馬の油と蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする化粧料。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク 20 g、ボタンピ 10 g、オウゴン 10 g、ケイガイ 5 g、カンゾウ 5 g の割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同じ薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。次に本発明の化粧料の製造の 1 例を示す。ジュウヤク 20 g、ボタンピ 10 g、オウゴン 10 g、ケイガイ 5 g、カンゾウ 5 g の生薬を約 140℃ のオリーブ油 500 cc で約 5 分間煮出して得た抽出液を濾過してエキスを得る。そしてエキスの温度が約 80～100℃ の時、蜜蝋 100 g と馬の油 400 g を加えて溶解、攪拌しながら冷やしてつくった化粧料。基剤として蜜蝋、馬の油等のほかにその他のものを加えても良い。

【0032】

【実施例 27】実施例 26 におけるオリーブ油を胡麻油、サフラワー油、ナタネ油、月見草油、ヒマワリ油、コーン油等その他の植物油としたもの。

【0033】

【実施例 28】実施例 26 におけるオリーブ油を α リノレン酸系のシソ油、エゴマ油等その他の植物油としたもの。

【0034】

【実施例 29】実施例 26、実施例 27、実施例 28 における植物油にヒノキチオール（植物油の成分）を添加したもの。

【0035】

【実施例 30】実施例 26、実施例 27、実施例 28、実施例 29 における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

【0036】

【実施例 31】ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、サイコ、ケイガイ等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに馬の油と蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする化粧料。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク 20 g、ボタンピ 10 g、オウゴン 10 g、サイコ 10 g、ケイガイ 5 g の割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同じ薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。次に本発明の化粧料の製造の 1 例を示す。ジュウヤク 20 g、ボタンピ 10 g、オウゴン 10 g、サイコ 10 g、ケイガイ 5 g の生薬を約 140℃ のオリーブ油 500 cc で約 5 分間煮出して得た抽出液を濾過してエキスを得る。そし

てエキスの温度が約 80~100℃の時、蜜蝋 100g と馬の油 400g を加えて溶解、攪拌しながら冷やしてつくった化粧料。基剤として蜜蝋、馬の油等のほかにその他のものを加えても良い。

【0037】

【実施例 32】実施例 31 におけるオリーブ油を胡麻油、サフラワー油、ナタネ油、月見草油、ヒマワリ油、コーン油等その他の植物油としたもの。

【0038】

【実施例 33】実施例 31 におけるオリーブ油を α リノレン酸系のシソ油、エゴマ油等その他の植物油としたもの。

【0039】

【実施例 34】実施例 31、実施例 32、実施例 33 における植物油にヒノキチオール（植物油の成分）を添加したもの。

【0040】

【実施例 35】実施例 31、実施例 32、実施例 33、実施例 34 における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

【0041】

【実施例 36】ジュウヤク、ボタンピ、サイコ、ケイガイ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウバク、サンシシ、ダイオウ、オウヒ、ソウジュツ、サンショウ等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに馬の油と蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする化粧料。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク 20g、ボタンピ 10g、サイコ 10g、ケイガイ 5g、シャクヤク 10g、ジオウ 10g、オウレン 5g、オウバク 3g、サンシシ 5g、ダイオウ 10g、オウヒ 5g、ソウジュツ 10g、サンショウ 5g の割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同じ薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。次に本発明の化粧料の製造の 1 例を示す。ジュウヤク 20g、ボタンピ 10g、サイコ 10g、ケイガイ 5g、シャクヤク 10g、ジオウ 10g、オウレン 5g、オウバク 3g、サンシシ 5g、ダイオウ 10g、オウヒ 5g、ソウジュツ 10g、サンショウ 5g の生薬を約 140℃のオリーブ油 500cc で約 5 分間煮出して得た抽出液を濾過してエキスを得る。そしてエキスの温度が約 80~100℃の時、蜜蝋 100g と馬の油 400g を加えて溶解、攪拌しながら冷やしてつくった化粧料。基剤として蜜蝋、馬の油等のほかにその他のものを加えても良い。

【0042】

【実施例 37】実施例 36 におけるオリーブ油を胡麻油、サフラワー油、ナタネ油、月見草油、ヒマワリ油、コーン油等その他の植物油としたもの。

【0043】

【実施例 38】実施例 36 におけるオリーブ油を α リノレン酸系のシソ油、エゴマ油等その他の植物油としたもの。

【0044】

【実施例 39】実施例 36、実施例 37、実施例 38 における植物油にヒノキチオールを添加したもの。

【0045】

【実施例 40】実施例 36、実施例 37、実施例 38、実施例 39 における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

【0046】

【実施例 41】ジュウヤク、ボタンピ、サイコ等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに馬の油と蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする化粧料。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク 20g、ボタンピ 10g、サイコ 10g の割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同様の薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。次に本発明の化粧料の製造の 1 例を示す。ジュウヤク 20g、ボタンピ 10g、サイコ 10g の生薬を約 140℃のオリーブ油 500cc で約 5 分間煮出して得た抽出液を濾過してエキスを得る。そしてエキスの温度が約 80~100℃の時、蜜蝋 100g と馬の油 400g を加えて溶解、攪拌しながら冷やしてつくった化粧料。基剤として蜜蝋、馬の油等のほかにその他のものを加えても良い。

【0047】

【実施例 42】実施例 41 におけるオリーブ油を胡麻油、サフラワー油、ナタネ油、月見草油、ヒマワリ油、コーン油等その他の植物油としたもの。

【0048】

【実施例 43】実施例 41 におけるオリーブ油を α リノレン酸系のシソ油、エゴマ油等その他の植物油としたもの。

【0049】

【実施例 44】実施例 41、実施例 42、実施例 43 における植物油にヒノキチオールを添加したもの。

【0050】

【実施例 45】実施例 41、実施例 42、実施例 43、実施例 44 における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

【0051】

【実施例 46】ジュウヤク、ボタンピ、サイコ、ケイガイ等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに馬の油と蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする化粧料。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク 20g、ボタンピ 10g、サイコ 10g の割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同様の薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。次に本発明の化粧料の製造の 1 例を示す。ジュウヤク 20g、ボタンピ 10g、サイコ 10g の生薬を約 140℃のオリーブ油 500cc で約 5 分間煮出して得た抽出液を濾過してエキスを得る。そしてエキスの温度が約 80~100℃の時、蜜蝋 100g と馬の油 400g を加えて溶解、攪拌しながら冷やしてつくった化粧料。基剤として蜜蝋、馬の油等のほかにその他のものを加えても良い。

0 g, ケイガイ 5 g の割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同様の薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。次に本発明の化粧料の製造の 1 例を示す。ジュウヤク 20 g, ボタンピ 10 g, サイコ 10 g, ケイガイ 5 g の生薬を約 140℃ のオリーブ油 500 cc で約 5 分間煮出して得た抽出液を濾過してエキスを得る。そしてエキスの温度が約 80~100℃ の時、蜜蝋 100 g と馬の油 400 g を加えて溶解、攪拌しながら冷やしてつくった化粧料。基剤として蜜蝋、馬の油等のほかにその他のものを加えても良い。

【0052】

【実施例 47】実施例 46 におけるオリーブ油を胡麻油、サフラワー油、ナタネ油、月見草油、ヒマワリ油、コーン油等その他の植物油としたもの。

【0053】

【実施例 48】実施例 46 におけるオリーブ油を α リノレン酸系のシソ油、エゴマ油等その他の植物油としたもの。

【0054】 — —

【実施例 49】実施例 46, 実施例 47, 実施例 48 における植物油にヒノキチオールを添加したもの。

【0055】

【実施例 50】実施例 46, 実施例 47, 実施例 48, 実施例 49 における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

【0056】

【実施例 51】ジュウヤク, ボタンピ, オウゴン, ケイガイ, シャクヤク, ジオウ, オウレン, オウバク, サンシシ, ダイオウ, ポウフウ, ソウジュツ等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする化粧料。上記の生薬は適当な割合で用いることができるが、ジュウヤク 20 g, ボタンピ 10 g, オウゴン 10 g, ケイガイ 5 g, シャクヤク 10 g, ジオウ 10 g, オウレン 5 g, , オウバク 3 g, サンシシ 5 g, ダイオウ 10 g, ポウフウ 10 g, ソウジュツ 10 g の割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同じ薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。次に本発明の化粧料の製造の 1 例を示す。ジュウヤク 20 g, ボタンピ 10 g, オウゴン 10 g, ケイガイ 5 g, シャクヤク 10 g, ジオウ 10 g, オウレン 5 g, オウバク 3 g, サンシシ 5 g, ダイオウ 10 g, ポウフウ 10 g, ソウジュツ 10 g の生薬を約 140℃ のオリーブ油 500 cc で約 5 分間煮出して得た抽出液を濾過してエキスを得る。そしてエキスの温度が約 80~100℃ の時、蜜蝋 500 g を加えて溶解、攪拌しながら冷やしてつくった化粧料。基剤として蜜蝋等のほかにその他のものを加えても良い。

【0057】

【実施例 52】実施例 51 におけるオリーブ油を胡麻油、サフラワー油、ナタネ油、月見草油、ヒマワリ油、コーン油等その他の植物油としたもの。

【0058】

【実施例 53】実施例 51 におけるオリーブ油を α リノレン酸系のシソ油、エゴマ油等その他の植物油としたもの。

【0059】

【実施例 54】実施例 51, 実施例 52, 実施例 53 における植物油にヒノキチオール（植物油の成分）を添加したもの。

【0060】

【実施例 55】実施例 51, 実施例 52, 実施例 53, 実施例 54 における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

【0061】

【実施例 56】ジュウヤク, ボタンピ, オウゴン, サイコ, ケイガイ, シャクヤク, ジオウ, オウレン, オウバク, サンシシ, ダイオウ, ポウフウ, ソウジュツ等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする化粧料。上記の生薬は適当な割合で用いることができるが、ジュウヤク 20 g, ボタンピ 10 g, オウゴン 10 g, サイコ 10 g, ケイガイ 5 g, シャクヤク 10 g, ジオウ 10 g, オウレン 5 g, オウバク 3 g, サンシシ 5 g, ダイオウ 10 g, ポウフウ 10 g, ソウジュツ 10 g の割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同じ薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。次に本発明の化粧料の製造の 1 例を示す。ジュウヤク 20 g, ボタンピ 10 g, オウゴン 10 g, サイコ 10 g, ケイガイ 5 g, シャクヤク 10 g, ジオウ 10 g, オウレン 5 g, オウバク 3 g, サンシシ 5 g, ダイオウ 10 g, ポウフウ 10 g, ソウジュツ 10 g の生薬を約 140℃ のオリーブ油 500 cc で約 5 分間煮出して得た抽出液を濾過してエキスを得る。そしてエキスの温度が約 80~100℃ の時、蜜蝋 500 g を加えて溶解、攪拌しながら冷やしてつくった化粧料。基剤として蜜蝋等のほかにその他のものを加えても良い。

【0062】

【実施例 57】実施例 56 におけるオリーブ油を胡麻油、サフラワー油、ナタネ油、月見草油、ヒマワリ油、コーン油等その他の植物油としたもの。

【0063】

【実施例 58】実施例 56 におけるオリーブ油を α リノレン酸系のシソ油、エゴマ油等その他の植物油としたもの。

【0064】

【実施例 59】実施例 56, 実施例 57, 実施例 58 に

おける植物油にヒノキチオール（植物油の成分）を添加したもの。

【0065】

【実施例60】実施例56、実施例57、実施例58、実施例59における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

【0066】

【実施例61】ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、サイコ、ケイガイ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウバク、サンシシ、ダイオウ、オウヒ、ソウジュツ、サンショウ等の生薬を適宜組合せて、これらをオリーブ油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする化粧料。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク20g、ボタンピ10g、オウゴン10g、サイコ5g、ケイガイ5g、シャクヤク10g、ジオウ10g、オウレン5g、オウバク3g、サンシシ5g、ダイオウ10g、オウヒ5g、ソウジュツ10g、サンショウ5gの割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同じ薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。次に本発明の化粧料の製造の1例を示す。ジュウヤク20g、ボタンピ10g、オウゴン10g、サイコ5g、ケイガイ5g、シャクヤク10g、ジオウ10g、オウレン5g、オウバク3g、サンシシ5g、ダイオウ10g、オウヒ5g、ソウジュツ10g、サンショウ5gの生薬を約140℃のオリーブ油500ccで約5分間煮出して得た抽出液を濾過してエキスを得る。そしてエキスの温度が約80～100℃の時、蜜蝋500gを加えて溶解、攪拌しながら冷やしてつくった化粧料。基剤として蜜蝋等のほかにその他のものを加えても良い。

【0067】

【実施例62】実施例61におけるオリーブ油を胡麻油、サフラワー油、ナタネ油、月見草油、ヒマワリ油、コーン油等その他の植物油としたもの。

【0068】

【実施例63】実施例61におけるオリーブ油を α リノレン酸系のシソ油、エゴマ油等その他の植物油としたもの。

【0069】

【実施例64】実施例61、実施例62、実施例63における植物油にヒノキチオールを添加したもの。

【0070】

【実施例65】実施例61、実施例62、実施例63、実施例64における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

【0071】

【実施例66】ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、サイコ、ケイガイ、カンゾウ、シャクヤク、ジオウ、ダイオ

ウ、ゲンジン、ビャクシ等の生薬を適宜組合せて、これらをオリーブ油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする化粧料。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク20g、ボタンピ10g、オウゴン10g、サイコ10g、ケイガイ5g、カンゾウ5g、シャクヤク10g、ジオウ10g、ダイオウ10g、ゲンジン10g、ビャクシ10gの割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同じ薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。次に本発明の化粧料の製造の1例を示す。ジュウヤク20g、ボタンピ10g、オウゴン10g、サイコ10g、ケイガイ5g、カンゾウ5g、シャクヤク10g、ジオウ10g、ダイオウ10g、ゲンジン10g、ビャクシ10gの生薬を約140℃のオリーブ油500ccで約5分間煮出して得た抽出液を濾過してエキスを得る。そしてエキスの温度が約80～100℃の時、蜜蝋500gを加えて溶解、攪拌しながら冷やしてつくった化粧料。基剤として蜜蝋等のほかにその他のものを加えても良い。

【0072】

【実施例67】実施例66におけるオリーブ油を胡麻油、サフラワー油、ナタネ油、月見草油、ヒマワリ油、コーン油等その他の植物油としたもの。

【0073】

【実施例68】実施例66におけるオリーブ油を α リノレン酸系のシソ油、エゴマ油等その他の植物油としたもの。

【0074】

【実施例69】実施例66、実施例67、実施例68における植物油にヒノキチオールを添加したもの。

【0075】

【実施例70】実施例66、実施例67、実施例68、実施例69における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

【0076】

【実施例71】ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン等の生薬を適宜組合せて、これらをオリーブ油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする化粧料。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク20g、ボタンピ10g、オウゴン10gの割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同様の薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。次に本発明の化粧料の製造の1例を示す。ジュウヤク20g、ボタンピ10g、オウゴン10gの生薬を約140℃のオリーブ油500ccで約5分間煮出して得た抽出液を濾過してエキスを得る。そしてエキスの温度が約80～100℃の時、蜜蝋500gを加えて溶解、攪拌しながら冷やし

てつくった化粧料。基剤として蜜蝋等のほかにその他のものを加えても良い。

【0077】

【実施例72】実施例71におけるオリーブ油を胡麻油、サフラワー油、ナタネ油、月見草油、ヒマワリ油、コーン油等その他の植物油としたもの。

【0078】

【実施例73】実施例71におけるオリーブ油を α リノレン酸系のシソ油、エゴマ油等その他の植物油としたもの。

【0079】

【実施例74】実施例71、実施例72、実施例73における植物油にヒノキチオールを添加したもの。

【0080】

【実施例75】実施例71、実施例72、実施例73、実施例74における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

【0066】

【実施例76】ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、ケイガイ、カンゾウ等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする化粧料。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク20g、ボタンピ10g、オウゴン10g、ケイガイ5g、カンゾウ5gの割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同様の薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。次に本発明の化粧料の製造の1例を示す。ジュウヤク20g、ボタンピ10g、オウゴン10g、ケイガイ5g、カンゾウ5gの生薬を約140℃のオリーブ油500ccで約5分間煮出して得た抽出液を濾過してエキスを得る。そしてエキスの温度が約80～100℃の時、蜜蝋500gを加えて溶解、攪拌しながら冷やしてつくった化粧料。基剤として蜜蝋等のほかにその他のものを加えても良い。

【0082】

【実施例77】実施例76におけるオリーブ油を胡麻油、サフラワー油、ナタネ油、月見草油、ヒマワリ油、コーン油等その他の植物油としたもの。

【0083】

【実施例78】実施例76におけるオリーブ油を α リノレン酸系のシソ油、エゴマ油等その他の植物油としたもの。

【0084】

【実施例79】実施例76、実施例77、実施例78における植物油にヒノキチオールを添加したもの。

【0085】

【実施例80】実施例76、実施例77、実施例78、実施例79における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

【0086】

【実施例81】ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、サイコ、ケイガイ等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする化粧料。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク20g、ボタンピ10g、オウゴン10g、サイコ10g、ケイガイ5gの割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同様の薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。次に本発明の化粧料の製造の1例を示す。キンギンカ20g、タンジン10g、オウゴン10g、サイコ10g、ケイガイ5gの生薬を約140℃のオリーブ油500ccで約5分間煮出して得た抽出液を濾過してエキスを得る。そしてエキスの温度が約80～100℃の時、蜜蝋500gを加えて溶解、攪拌しながら冷やしてつくった化粧料。基剤として蜜蝋等のほかにその他のものを加えても良い。

【0087】

【実施例82】実施例81におけるオリーブ油を胡麻油、サフラワー油、ナタネ油、月見草油、ヒマワリ油、コーン油等その他の植物油としたもの。

【0088】

【実施例83】実施例81におけるオリーブ油を α リノレン酸系のシソ油、エゴマ油等その他の植物油としたもの。

【0089】

【実施例84】実施例81、実施例82、実施例83における植物油にヒノキチオールを添加したもの。

【0090】

【実施例85】実施例81、実施例82、実施例83、実施例84における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

【0091】

【実施例86】ジュウヤク、ボタンピ、サイコ、ケイガイ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウバク、サンシシ、ダイオウ、オウヒ、ソウジュツ、サンショウ等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする化粧料。上記の生薬は適当な割合で用いることができるが、ジュウヤク20g、ボタンピ10g、サイコ10g、ケイガイ5g、シャクヤク10g、ジオウ10g、オウレン5g、オウバク3g、サンシシ5g、ダイオウ10g、オウヒ5g、ソウジュツ10g、サンショウ5gの割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同じ薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。次に本発明の化粧料の製造の1例を示す。ジュウヤク20g、ボタンピ10g、サイコ10g、ケイガイ5g、シャクヤク1

0 g, ジオウ 10 g, オウレン 5 g, オウバク 3 g, サンシシ 5 g, ダイオウ 10 g, オウヒ 5 g, ソウジュツ 10 g, サンショウ 5 g の生薬を約 140℃ のオリーブ油 500 cc で約 5 分間煮出して得た抽出液を濾過してエキスを得る。そしてエキスの温度が約 80~100℃ の時、蜜蝋 500 g を加えて溶解、攪拌しながら冷やしてつくった化粧料。

【0092】

【実施例 87】実施例 86 におけるオリーブ油を胡麻油、サフラワー油、ナタネ油、月見草油、ヒマワリ油、コーン油等その他の植物油としたもの。

【0093】

【実施例 88】実施例 86 におけるオリーブ油を α リノレン酸系のシソ油、エゴマ油等その他の植物油としたもの。

【0094】

【実施例 89】実施例 86, 実施例 87, 実施例 88 における、煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去して得たエキスを、それぞれヒノキチオール（植物油の成分）を組み合わせたもの。

【0095】

【実施例 90】実施例 86, 実施例 87, 実施例 88, 実施例 89 における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

【0096】

【実施例 91】ジュウヤク、ボタンピ、サイコ等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする化粧料。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク 20 g, ボタンピ 10 g, サイコ 10 g の割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同じ薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。次に本発明の化粧料の製造の 1 例を示す。ジュウヤク 20 g, ボタンピ 10 g, サイコ 10 g の生薬を約 140℃ のオリーブ油 500 cc で約 5 分間煮出して得た抽出液を濾過してエキスを得る。そしてエキスの温度が約 80~100℃ の時、蜜蝋 500 g を加えて溶解、攪拌しながら冷やしてつくった化粧料。

【0097】

【実施例 92】実施例 91 におけるオリーブ油を胡麻油、サフラワー油、ナタネ油、月見草油、ヒマワリ油、コーン油等その他の植物油としたもの。

【0098】

【実施例 93】実施例 91 におけるオリーブ油を α リノレン酸系のシソ油、エゴマ油等その他の植物油としたもの。

【0099】

【実施例 94】実施例 91, 実施例 92, 実施例 93 に

おける、煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去して得たエキスを、それぞれヒノキチオール（植物油の成分）を組み合わせたもの。

【0100】

【実施例 95】実施例 91, 実施例 92, 実施例 93, 実施例 94 における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

【0101】

【実施例 96】ジュウヤク、ボタンピ、サイコ、ケイガイ等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする化粧料。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク 20 g, ボタンピ 10 g, サイコ 10 g, ケイガイ 5 g の割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同じ薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。次に本発明の化粧料の製造の 1 例を示す。ジュウヤク 20 g, ボタンピ 10 g, サイコ 10 g, ケイガイ 5 g の生薬を約 140℃ のオリーブ油 500 cc で約 5 分間煮出して得た抽出液を濾過してエキスを得る。そしてエキスの温度が約 80~100℃ の時、蜜蝋 500 g を加えて溶解、攪拌しながら冷やしてつくった化粧料。

【0102】

【実施例 97】実施例 96 におけるオリーブ油を胡麻油、サフラワー油、ナタネ油、月見草油、ヒマワリ油、コーン油等その他の植物油としたもの。

【0103】

【実施例 98】実施例 96 におけるオリーブ油を α リノレン酸系のシソ油、エゴマ油等その他の植物油としたもの。

【0104】

【実施例 99】実施例 96, 実施例 97, 実施例 98 における、煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去して得たエキスを、それぞれヒノキチオール（植物油の成分）を組み合わせたもの。

【0105】

【実施例 100】実施例 91, 実施例 92, 実施例 93, 実施例 94 における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

【0106】

【実施例 101】ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、ケイガイ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウバク、サンシシ、ダイオウ、ポウフウ、ソウジュツ等の生薬を適宜組合わせて、これらを馬の油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする化粧料。上記の生薬は適当な割合で用いることができるが、ジュウヤク 20 g, ボタンピ 10 g, オウゴン 10 g, ケイガイ 5 g,

シャクヤク 10 g, ジオウ 10 g, オウレン 5 g, オウバク 3 g, サンシシ 5 g, ダイオウ 10 g, ポウフウ 10 g, ソウジュツ 10 g の割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同様の薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。

【0107】

【実施例 102】実施例 101 における、煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去して得たエキスを、ヒノキチオール（植物油の成分）を組み合わせたもの。

【0108】

【実施例 103】実施例 101, 実施例 102 における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

【0109】

【実施例 104】ジュウヤク, ボタンピ, オウゴン, サイコ, ケイガイ, シャクヤク, ジオウ, オウレン, オウバク, サンシシ, ダイオウ, ポウフウ, ソウジュツ等の生薬を適宜組合わせて、これらを馬の油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする化粧料。上記の生薬は適当な割合で用いることができるが、ジュウヤク 20 g, ボタンピ 10 g, オウゴン 10 g, サイコ 10 g, ケイガイ 5 g, シャクヤク 10 g, ジオウ 10 g, オウレン 5 g, オウバク 3 g, サンシシ 5 g, ダイオウ 10 g, ポウフウ 10 g, ソウジュツ 10 g の割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同様の薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。

【0110】

【実施例 105】実施例 104 における、煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去して得たエキスを、ヒノキチオール（植物油の成分）を組み合わせたもの。

【0111】

【実施例 106】実施例 104, 実施例 105 における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

【0112】

【実施例 107】ジュウヤク, ボタンピ, オウゴン, サイコ, ケイガイ, シャクヤク, ジオウ, オウレン, オウバク, サンシシ, ダイオウ, オウヒ, ソウジュツ, サンショウ等の生薬を適宜組合わせて、これらを馬の油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする化粧料。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク 20 g, ボタンピ 10 g, オウゴン 10 g, サイコ 10 g, ケイガイ 5 g, シャクヤク 10 g, ジオウ 10 g, オウレン 5 g, オウバク 3 g, サンシシ 5 g, ダイオウ 10 g, オウヒ 5 g, ソウジュツ 10 g, サンショウ 5 g の割合で用いるのが好ましい。また上記

生薬と同様の薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。

【0113】

【実施例 108】実施例 107 における、煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去して得たエキスを、ヒノキチオール（植物油の成分）を組み合わせたもの。

【00114】

【実施例 109】実施例 107, 実施例 108 における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

【0115】

【実施例 110】ジュウヤク, ボタンピ, オウゴン, サイコ, ケイガイ, カンゾウ, シャクヤク, ジオウ, ダイオウ, ゲンジン, ビャクシ等の生薬を適宜組合わせて、これらを馬の油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする化粧料。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク 20 g, ボタンピ 10 g, オウゴン 10 g, サイコ 10 g, ケイガイ 5 g, カンゾウ 3 g, シャクヤク 10 g, ジオウ 10 g, ダイオウ 10 g, ゲンジン 10 g, ビャクシ 10 g の割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同様の薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。

【0116】

【実施例 111】実施例 110 における、煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去して得たエキスを、ヒノキチオール（植物油の成分）を組み合わせたもの。

【0117】

【実施例 112】実施例 110, 例 111 における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

【0118】

【実施例 113】ジュウヤク, ボタンピ, オウゴン等の生薬を適宜組合わせて、これらを馬の油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする化粧料。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク 20 g, ボタンピ 10 g, オウゴン 10 g の割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同様の薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。

【0119】

【実施例 114】実施例 113 における、煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去して得たエキスを、ヒノキチオール（植物油の成分）を組み合わせたもの。

【0120】

【実施例 115】実施例 113, 実施例 114 における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

【0121】

【実施例116】ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、ケイガイ、カンゾウ等の生薬を適宜組合わせて、これらを馬の油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする化粧料。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク20g、ボタンピ10g、オウゴン10g、ケイガイ5g、カンゾウ5gの割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同様の薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。

【0122】

【実施例117】実施例116における、煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去して得たエキスを、ヒノキチオール（植物油の成分）を組み合わせたもの。

【0123】

【実施例118】実施例116、実施例117における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

【0124】

【実施例119】ジュウヤク、ボタンピ、オウゴン、サイコ、ケイガイ等の生薬を適宜組合わせて、これらを馬の油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする化粧料。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク20g、ボタンピ10g、オウゴン10g、サイコ10g、ケイガイ5gの割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同様の薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。

【0125】

【実施例120】実施例119における、煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去して得たエキスを、ヒノキチオール（植物油の成分）を組み合わせたもの。

【0096】

【実施例121】実施例119、実施例120における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

【0127】

【実施例122】ジュウヤク、ボタンピ、サイコ、ケイガイ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウバク、サンシシ、ダイオウ、オウヒ、ソウジュツ、サンショウ等の生薬を適宜組合わせて、これらを馬の油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする化粧料。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク20g、ボタンピ10g、サイコ10g、ケイガイ5g、シャクヤク10g、ジオウ10g、オウレン5g、オウバク3g、サンシシ5g、ダイオウ10g、オウヒ

5g、ソウジュツ10g、サンショウ5gの割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同様の薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。

【0128】

【実施例123】実施例122における、煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去して得たエキスを、ヒノキチオール（植物油の成分）を組み合わせたもの。

【00129】

【実施例124】実施例122、実施例123における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

【0130】

【実施例125】ジュウヤク、ボタンピ、サイコ等の生薬を適宜組合わせて、これらを馬の油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする化粧料。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク20g、ボタンピ10g、サイコ10gの割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同様の薬理作用をもつ、その他の生薬を適宜用いてもよい。

【0131】

【実施例126】実施例125における、煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去して得たエキスを、ヒノキチオール（植物油の成分）を組み合わせたもの。

【0132】

【実施例127】実施例125、実施例126における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

【0133】

【実施例128】ジュウヤク、ボタンピ、サイコ、ケイガイ等の生薬を適宜組合わせて、これらを馬の油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする化粧料。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがジュウヤク20g、ボタンピ10g、サイコ10g、ケイガイ5gの割合で用いるのが好ましい。また上記生薬と同様の薬理作用をもつその他の生薬を適宜用いてもよい。

【0134】

【実施例129】実施例128における馬の油にヒノキチオールを添加したもの。

【0135】

【実施例130】実施例128、実施例129における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

【0136】

【発明の効果】本発明の化粧料を軽く皮膚に塗布することにより副作用がなく、皮膚を正常化していく。そして、にきび、主婦湿疹等を伴う皮膚に対しては、副作用

がなく正常化することができ、また、かゆみを伴う皮膚に対しても、それを抑えて皮膚を正常化していく。そして皮膚を正常に回復させることはもちろん、副腎皮質

ステロイドホルモン剤の使用により変色した皮膚の色を正常に戻すこともできる。

フロントページの続き

(51) Int. Cl. 6
A 61 K 35/78

識別記号 庁内整理番号
A D A W 8217-4 C

F I

技術表示箇所